

1歳6か月児・3歳児 歯科健診 早見マニュアル

歯の状態	健全歯	健全歯	／ または —	う蝕またはう蝕処置が認められない歯 ※咬耗、摩耗、着色、酸蝕、外傷による破折、形成不全であっても、う蝕が認められない限り健全歯とする ※一部でも萌出していれば記入し、未萌出歯は空欄とする
		要観察歯 (シーオー)	CO	初期う蝕病変あるいはう蝕の疑いがあるが、視診上う窩が確認できない歯(1歳6か月児のう蝕罹患型O ₂ に該当) ※COは本来学校歯科健診の用語であるが、便宜上用いる
		シーラント	⊙	予防充填の施された歯 ※明瞭な脱灰や実質欠損が認められるものは、う蝕とする
	未処置歯	う蝕歯	C	実質欠損が認められる歯 ※視診で確認する
		サホライド塗布歯	⊕	実質欠損のある歯に、進行抑制としてサホライド(フッ化ジアンミン銀)を塗布してある歯 ※明瞭な脱灰や実質欠損が認められないものは健全歯とする
	処置歯		○	う蝕処置の完了した歯
	その他	喪失歯	△	う蝕で喪失した歯 ※先天性欠如歯および外傷などで脱落したことが明らかなものは含まず、空欄とする
癒合歯・癒着歯		Ⓜ	癒合、癒着している歯 ※後方歯を欠如とし、歯数は1歯とする	
歯の汚れ	1歳6か月児		3歳児	
	上顎4前歯の唇面の歯垢の付着を診査する きれい：ほとんど歯垢を認めない 少ない：歯面の1/2程度に歯垢が付着 多い：歯面の1/2以上に歯垢が付着		全歯唇面の歯垢の付着を診査する きれい：ほとんど歯垢を認めない 少ない：「きれい」「多い」のどちらでもない状態 多い：ほぼ全歯に歯垢が付着	
う蝕罹患型	1歳6か月児		3歳児	
	危険因子(例)			
	口腔環境 歯垢付着状態 不良		O	う蝕がない
	問診項目 主な養育者 父母以外 母乳の有無 与えている 哺乳ビン 使用している よく飲むもの 清涼飲料水 間食時刻 決めていない 歯の清掃 行わない		A	上顎前歯部のみ、または臼歯部のみ にう蝕がある
	O ₁	う蝕がなく、口腔環境もよい(問診項目で危険因子が少ない)	B	臼歯部及び上顎前歯部にう蝕がある
	O ₂	う蝕はないが、口腔環境が悪い(問診項目で危険因子が多い)ので、近い将来う蝕発生が懸念される	C ₁	下顎前歯部のみ にう蝕がある
	A	上顎前歯部のみ、または臼歯部のみ にう蝕がある	C ₂	下顎前歯部を含む他の部位 にう蝕がある
B	臼歯部及び上顎前歯部にう蝕がある			
C	臼歯部及び上下顎前歯部にう蝕がある 下顎前歯部のみ にう蝕がある場合もこれに含む			

歯の異常の有無	う蝕以外の歯の異常があれば「有」とする ※矮小歯（円錐歯、栓状歯）、結節、エナメル質形成不全、白斑歯、先天性欠如歯、過剰歯、テトラサイクリン系抗生物質の投与や外傷による変色歯など	
咬合異常の有無	1歳6か月児	3歳児
	顕著な歯列不正や不正咬合で、将来、咬合異常が予測される場合は「有（経過観察、要注意等）」とする ※下記の不正咬合診査基準参照	顔貌並びに歯列、咬合の状態から明らかな歯列不正や不正咬合が認められる場合に「有（経過観察、要注意等）」とする なお、診査に当たっては必ず診査者が手を添えて咬合させる ※下記の不正咬合診査基準参照
軟組織異常の有無	歯肉、舌、口腔粘膜、小帯等口腔軟組織の疾病や異常等があれば「有」とする ※歯肉炎、上唇小帯異常、舌小帯異常、口内炎、口角びらん、口唇ヘルペス、コプリック斑、口腔カンジダ症、血管腫などの腫瘍、地図状舌、溝状舌、ガマ腫など	
その他	治療や定期観察を必要とする疾病・異常があれば「有」とする う蝕が多いにも関わらず未処置であったり、親子の様子を観察した上で、ネグレクト（養育の拒否や放置）などの疑いがあれば、保健師等に相談する	

不正咬合診査基準

反対咬合	上顎乳切歯が下顎乳切歯より後方に咬み込み、正常な被蓋と逆になっているもの この時、顎位や単なる前咬みとの識別に注意する
上顎前突	下顎乳切歯の切縁が切歯乳頭より後方歯肉に咬み込んでいるもの
開咬	2歯以上が上下的（垂直的）に咬合しないもの
そう生	個々の歯の位置異常や捻転があるもの
正中離開	上顎乳中切歯に大きな歯間空隙があるもの
その他	顎偏位、歯数異常による歯列不正など 不正咬合の原因となる、口呼吸（鼻づまり）、吸指癖、吸唇癖、舌癖などがあれば記載する

判定

問題なし	う歯がなく、歯も清潔で、よい生活習慣が身についているもの
要指導	う歯はないが、生活習慣や歯の清掃状態の改善のための助言指導が必要なもの COのあるもの
要観察	う歯は全て処置されているが、今後も歯科医師による経過観察が必要なもの
要治療	う歯があり、医療機関で歯科治療が必要なもの 現在、歯科治療中のもの